



August 2019
広報No.676

キラリ☆亀岡

■亀岡市の人口と世帯数

	令和元年 7月23日現在	平成30年 7月26日現在
人口	88,758人	89,282人
内訳	男	43,255人
	女	45,503人
世帯数	39,091世帯	38,910世帯

主な内容

- 1ページ
奇跡のアジサイに込められた想い
- 2ページ
亀岡で、大河ドラマの世界を満喫!
- 3ページ
マイバッグ持参にご協力をお願いします
～8月20日からレジ袋の有料化がはじまります～
- 4ページ
亀岡市総合防災訓練を実施します

編集発行:亀岡市長公室秘書広報課 / 〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地 / ☎0771-22-3131(代) ☎0771-24-5501
 ホームページ <https://www.city.kameoka.kyoto.jp> 電子メール office@city.kameoka.lg.jp フェイスブック <https://www.facebook.com/kameokacity>
 LINEアドレス line://ti/p/@kameokacity ID @kameokacity インスタグラム <https://www.instagram.com/kameokacity/> ID kameokacity



開花した「奇跡のアジサイ」(写真提供:長沼商会【福島県須賀川市】)

平和池水害を語り継ぐ

込められた想い

奇跡のアジサイに

昭和26年、集中豪雨による増水で、南桑田郡にあった灌漑用ダム「平和池」が決壊。濁流が下流のまちに流れ込み、多くの尊い命が犠牲になりました。時を経て、「平和池水害伝承の会」を中心とする市民の皆さんが、東日本大震災によって決壊した福島県須賀川市のダムの湖底で発見された「奇跡のアジサイ」を譲り受け、このほど、記憶を語り継ぐ防災のシンボルとして、植樹式が行われました。



平和池跡 奇跡のアジサイ植樹式
亀岡奇跡のあじさい会

平和池跡に「奇跡のアジサイ」を植樹(令和元年6月7日)

災害の記憶を教訓として

昭和26年7月10日深夜から11日未明にかけ、西日本は梅雨明け時期の局地的豪雨に襲われました。南桑田郡亀岡町(現亀岡地区)では、既に年谷川が増水していたところ、その上流に位置する平和池が決壊し、鉄砲水と化した濁流が瞬く間に下流の集落(南桑田郡篠村、南桑田郡亀岡町)を直撃しました。この水害は、現亀岡市域での98人(篠町柏原75人、篠町山本2人、上矢田町17人、三宅町3人、西堅町1人)ほか、計114

人が犠牲になる未曾有の大災害となりました。時の流れとともに、災害の記憶は薄らぎ、この平和池水害の歴史は語られることも少なくなっていました。しかし、被災から半世紀を経た平成13年、篠町柏原区の住民が、この災害を次世代に伝える災害記録づくりに着手し、「柏原平和池水害伝承の会」の活動が始まりました。未来に伝える 防災のシンボル

福島県須賀川市は、平成

「奇跡のアジサイ」とは

平成23年3月11日、東北地方を襲ったマグニチュード9.0の東日本大震災により、福島県須賀川市にある貯水池、藤沼湖の本堤ダムが決壊。7人が死亡、1人が行方不明となる極めて大きな被害が発生しました。被災後の水がなくなった湖底を歩くことで、犠牲になった人への追悼、復興の足掛かりにしようと、地元の長沼商

工会が「藤沼湖の湖底を歩く会」を実施。その時、湖底にアジサイの群生があることが発見されました。このアジサイは移植され、「奇跡のアジサイ」と名付けられました。そして、地域の家庭や全国のアジサイ愛好家が里親となって株を増やし、被災から立ち上がるシンボルとしていこうと、現在も活動が続いています。



奇跡のアジサイ みらい

平和池水害を「総合的な学習」の時間で学ぶ詳徳小学校4年生の児童たちが、「奇跡のアジサイ」から増やした苗木を、被災日である7月11日、学校内に植樹しました。4年生が愛称の案を考え、最終的に全校生徒で「みらい」と名付けたこのアジサイは、命を守ること、災害を未来に語り継いでいく決意を込め、大切に育てられます。



柏原平和池水害伝承の会 代表 中尾祐蔵さん

23年の東日本大震災による藤沼ダム決壊で水害に見舞われています。平和池水害と同じような災害背景を持つことから柏原平和池水害伝承の会との住民交流が始まり、意見交換や視察などが行われています。

この住民交流を通じ、藤沼ダムの湖底に群生していた「奇跡のアジサイ」3株の苗木が、平成28年6月に届けられました。この苗木は、柏原平和池水害伝承の会、NPO法人亀岡・花と緑の会、亀岡市都市緑花協会で構成する「亀岡奇跡のあじさいの会」により、増やし育てられ、亀岡市内に広げる活動が展開されています。

そして、この「奇跡のアジサイ」を防災のシンボルとして災害の教訓を学び伝えていこうと、6月7日、平和池跡モニュメント横(南つつじヶ丘)で植樹式を開催。両市の被災日が同じ11

日であることから、11株の苗が桂川市長、亀岡奇跡のあじさいの会のメンバーにより植えられました。柏原平和池水害伝承の会代表の中尾祐蔵さんは「生きる強さが感じられる『奇跡のアジサイ』を防災のシンボルとして広め、多くの人に防災を考えていただくようになれば」と話されています。

災害は、いつ起こるか分かりません。過去の記録や伝承から学び、教訓を「備え」として次の世代に受け継いでいくことが重要です。防災を一人ひとりが意識し行動につなげていくことは、災害に強いまちづくりのため第一歩なのです。